

# 中国に民主主義は必要か？

流血の天安門事件で脚光を浴びた民主化運動組織は、「ボストン鄧小平」の激動にいか「ミツ」の？



中国民主化運動指導者

馬大維

(民主中国陣線副首席、中国民主党「秘書長」)

橋爪大三郎

(東京工業大学助教授)



民主化を要求して天安門広場に集まった学生たちに、人民解放軍が発砲した一九八九年六月四日。あの天安門事件の衝撃は、CNNテレビの映像に乗って、地球を駆けめぐった。世界中の人々は、流血の惨事にわが目を疑い、一九九七年の返還を控えた香港の目抜き通りには、連日百万人のデモ隊に埋め尽くされた。あれから五年あまり、中国は以前にも増して驚異的な経済成長の道を突っ走っている。国外へ脱出した民主化運動のリーダーたちの噂も、だんだん耳にしなくなった。曲がり角にさしかかっているのではないかと思われる中国民主化運動だが、この先いったいどのような展望をもって進んでいくのか？ 近い将来必ず訪れる「ボストン鄧小平」時代に、どういう戦略で臨もうとしているのか？

誰もが抱くはずのこうした疑問に、ちょうど答えてくれそうな人物が日本を訪れた。馬大維氏(五十六歳)。天安門事件のリーダーの一人、ウーアルカイシーも所属している「民主中国陣線」の副主席である。

「民主中国陣線」は天安門事件後に亡命した人たちを中心にしてつくられた組織で、彼らの思想的指導者である万潤南を主席として、

現在、世界各地で五千名ほどが活動しているという。中国民主化運動の組織としては、天安門事件以前からある「中国民主団結連盟」と並ぶ規模で、本部はパリにあり、日本支部にも四十〜五十名の活動家がいるとのことである。

馬大維氏は一九三八年に上海で生まれ、十五歳で渡米した中国系アメリカ人である。外交官として日本、香港などに駐在したのち、現在は弁護士業のかたわら、「民主中国陣線」に参加し、アメリカ政府に対するロビー活動などを行っている。

その馬氏が数日の間東京に滞在するという情報が『宝島30』編集部から届いたのは、師走の声を聞く頃だった。さっそく駆けつけた私を、馬氏は気さくに迎えてくれた。アメリカでの生活が長いので英語も堪能だそうだが、こちらの英語に問題があるので、インタビュ―は中国語で行なった。

## 民主化と経済的利益は一致する

橋爪 最初に、馬さんたち中国民主化運動を進める立場の方々が中国の現状をどのように

ご覧になっているか、伺いたいと思います。アメリカをはじめとする西側先進国には、中国が現在のような経済開放政策をとるならば「社会主義市場経済」路線でも少々のことは目をつぶる、というような雰囲気生まれつつあるように感じるのですが。

馬 私はいアメリカでロビー活動をし、あちこちを訪れています。今はどの国も経済的利益を第一に考えている。アメリカもそうです。現実政治とはそういうものです。でも、私はこう言いたい。民主的でない国家と貿易をしても利益に限度がある、と。中国は経済を対外開放しましたが、どの程度外国に開放するかは中国政府がコントロールしているわけです。開放される市場は二〇%、三〇%かもしれないけれど、一〇〇%ではありません。アメリカは世界でもっとも民主的な国家ですから、よその国は一〇〇%の利益を得られる。だから先進国であれ日本であれ、中国の民主化が達成されてこそ経済的な利益が完全に保証されるのだ、ということを知るべきなのです。

簡単な例を挙げましょう。麦档勞(マクドナルド)を知っていますね、ハンバーガーの。

今、北京の街中で二十年契約で営業して繁盛しています。しかし政府は、あと三年で撤収しろと言いだした。理由は、地価が高騰したから香港の資本家に二十階建てのビルを建てさせることにした、その方が儲かるというわけです。中国は法治主義でないから、政府がそう言えばそれで決まりなのです。

中国を有望で大きな市場だと考えるのなら、中国が民主、自由、法治を得られれば世界に對する貢献はもっとも大きくなるということをお忘れなでほしい。中国の民主、自由、法治は、世界人類の幸福につながるのです。

橋爪 急激な経済発展の陰で、すでに貧富格差、地域格差が拡大していますね。

馬 今、中国社会におけるもっとも大きな問題は、公平制度がないことです。今拳が二つの格差も重要ですが、高級幹部の子弟が権力を握ってしまうのも問題です。父親が鄧小平だったり王震だったりするだけで、大きな権力を手にできる。これが不公平をつくり出すのです。

では、どうやってこうした不公平を是正していくか。それにはまず、社会の基礎になる大勢の中産階級をつくり出すことです。中産

があります。

階級の存在は、民主の発展のため、社会の安定のために大切です。仮に中国政府が、鄧小平の言う「社会主義の特色のある経済発展」を続けるのであれば、必ずやこうした原則を欠くことになるでしょう。

橋爪 「盲流」や犯罪が頻発するようになるのは、そこに原因があるかと？

馬 まったくそうです。経済発展に整合的な計画がないからです。有力者につながる人たちや、官倒(官僚ブローカー)のやりたい放題です。

また、農村も深刻な問題を抱えている。工場労働者も失業の瀬戸際にあります。いま、実質的に国营企業の八〇％は赤字ですが、仮にこれらの企業がみな私営企業になったとしたら、そこから生まれる失業者たちは共産党に反対する勢力となるでしょう。多くの地方で、賃金の遅配・欠配が続出しています。とくに辺境地域——遼寧省とかチベットとか——、つまり発展途上地帯の工場労働者はしょっちゅうストライキ騒ぎを起こしています。十年といわず、五年に一度、動乱が起こっても不思議でない。このように大きな社会問題があるわけです。「盲流」の問題もこれと関係

### 香港返還と民族問題

橋爪 九七年の香港返還については、どのような見方をされていますか。

馬 香港基本法には「返還後、五十年は現状維持」という八四年の中英協定が盛り込まれており、返還後の特別行政区「中国香港」の地位は確定しています。中国共産党がこの協定を守らないということにでもなれば、それこそ国際問題になるでしょう。すべての問題は、中国共産党が協定を守るかどうかによって決まっています。

宝島 中国共産党が協定を破る可能性はあるんですか。

馬 もうすでに破り始めていますよ(笑)。だから、香港の人々は心配していて、この半年で海外移住希望者が増え、また出国ブームが起こっている。それまでの一、二年は落ち着いていたんですがね。

そもそも騒ぎは、中国共産党が、直接選挙で選ばれた現在の香港の立法評議会を否定したことから始まりました。この立法評議会

を返還後は認めない、もう一度選び直す、と。当然彼らは、北京派の香港人を利用する。公平に選ばれた人たちでなくてね。だから、「五十年間現状維持」というのは信用できないわけですね。

橋爪 民族問題についてはどういう立場ですか。

馬 これは微妙な問題です。共産党には、少数民族問題を認め、解決しようとする議論が存在しない。将来、中国が一個の民族国家であり続けるとすると、少数民族問題の解決は難しいことになりそうです。そうした問題は感情面からではなく、経済、社会の発展、文化など、いろいろな側面から考えなければならぬ。少数民族の問題は、理性で解決する必要があるので。

私は、チベットや台湾が独立してもかまわないと思う。感情の面で率直に言えば私にもひっかかりがあるけれども、二一世紀の発展を考えると、中国にとっても独立させた方がいいのではないかと。国土が小さくなれば統一も容易だし、文化の面でもすっきりする。でもこういう話を伝統的な中国人が聞くと、嫌がるかもしれません。この点を考えると、連



海外における中国民主化運動のリーダー・王炳章氏



天安門事件のリーダーの一人であるウーアルカイシー氏

邦制という解決方法もあるかもしれない。  
橋爪 連邦制を考え始めた中国政府の人たちも、少なくとも聞いています。  
馬 そうそう。連邦制というのは、いいかもしれない。みんな独立しているんだが、それでも一緒にやってみよう、と。こういう解決もあるでしょう。

### 運動の内部はとて複雑

橋爪 次に、中国の民主化運動の最近の状況について、お話しください。

馬 八九年六月四日、天安門で大勢の学生たちが殺されてから、多くの活動家や民主化の思想的リーダーたちが国外に脱出しました。万潤南、嚴家其、ウーアルカイシー、蘇偉、蘇小康など多くの人々がパリに集まり、九月に「民主中国陣線」という組織を結成しました。もちろん海外には、八二年に王炳章、胡平、李大海らが結成した「中国民主團結連盟」をはじめ、いくつもの民主組織が存在していましたが、天安門事件が大きなきっかけになって運動が盛り上がったのは確かです。それから二、三年はそれなりに活動も活発



でしたが、正直に言って、今はだんだん尻すぼみになりつつある。それにはいくつか原因があります。

まず第一に、自然の傾向とでもいべきか、誰だって仕事を見つけない、食べていかなければなりませんから、いつの間にか離れていく。

第二に、民主化運動の組織そのものの問題。もともと組織は、いろいろな傾向の人たちの寄り合い所帯でした。心底から中国の民主化を願っている人間は組織を離れませんが、中国共産党の教育を受け、海外に出てから民主化がいいと思った人たちが大部分だったわけですから、根が共産党的なのです。おまけに、海外で民主化運動を進めていこうとすると、中国共産党が工作員を送り込んでくる。台湾の国民党政府は民主化運動を支持してくれてもよさそうなのですが、内情が複雑で簡単にはいかない。そういうわけで、できあがった民主化運動の組織にはいろいろな考えの異なった人たちが混じっていました。だからもともと矛盾があつて、内部に多くの問題が生じているのです。

アメリカにもヨーロッパにも、大陸からや

ってきた多くの学者・学生がいました。その一部は、そもそも民主化のためにやってきた人たちで、今でもわれわれの隊伍にとどまっています。けれども大部分は、国外で生活を続けていくために——アメリカならグリーンカードや永住権を得るために——加わってきた人たちなので、身分が得られると組織を離れてしまう。また最近、中国は経済が順調で市場も大きくなりました。そのため多くの人間が、金儲けをしようとして民主化運動の隊伍を離れていきました。加えて西側各国の政府も経済的な利益を第一に考え、民主化を二の次と考へ始めました。これが、海外の民主化運動がだんだん下火になってきた理由です。

今、人間がほとんどなくなっています。活動資金も底をつきました。それでも民主化運動にとどまっているのは、自分なりにこの運動に貢献しようと思っている人々ばかりです。もちろん、将来地位を得ようと考えている人間も少しはいます。また、民主化運動をメシの種にしている人間もいるかもしれない。運動の内部はとても複雑なのです。

橋爪 「ポスト鄧小平時代」の到来がいよいよ現実のものとなってきつつあるわけですが、

今後の運動の戦略についてはどうお考えですか。

例えば、一方でこう言う人々がいます。中国では共産党が権力を持っているのだから、やっぱり共産党を通して民主化を進めていくしかない。改革派が大勢いるから、彼らに期待するのがもっとも現実的だ、と。

また別の人々は、共産党に懐疑的で、共産党にはもともと民主化を進める能力がないと考えています。だから共産党以外の政治団体をつくり上げなければならぬ、と。

馬 これは大きな問題ですね。長期的な見通しはさておき、われわれの当面の運動計画を述べましょう。

第一に、これからはずっと民主の旗を掲げていくこと。決して降ろすことはしません。たとえどれだけ人が離れていこうと、財力がなくなろうと、頑張ります。というのは、われわれの運動が中国の一般民衆の心の支えになりうらと思うからです。国内の人々はずっと共産党の支配下に置かれていますが、いつの日か、そこからの解放を希望する日が来ないとも限らない。だから、民主化運動が「存在する」こと自体が、一種の義務なのです。

第二に、精いっぱい海外で人材を引き入れること。われわれが今できる仕事は限られています。マンパワーにも財力にも問題がある。だからやりたくてもできないことが多いのです。

第三に、運動の成果をできるだけ中国大陸に持つていくこと。われわれは、中国国内の民主化運動の人々と連絡を保っています。われわれがずっと彼らのために運動を続けていることを知ってもらいたいし、できる限りのことをやっていきたい。

### 「ポスト鄧小平時代」の到来

橋爪 今後、中国はどのように変化すると思われませんか。

馬 これは、鄧小平氏がいつ死ぬかにかかっています。最近私は、香港で、大陸からやってきた高級幹部の子弟と話しました。彼の話では、国内では、みんな明日にもそういうことがあるかも知れないと話しているのだそうです。中国の指導部は、一枚岩ではない。いくつものグループにバラバラに分かれている。そして、そのそれぞれが、もう準備を始

めています。軍人も、高級幹部の子弟(太子党)も、秒読みに入っています。

ただし、仮にその日がやってきたとしても、われわれが中国に出かけていって、何か影響を与えることができるとは思いません。そこでまず、彼らの変化を見なければならぬ。われわれにできることと言えば、海外でそれに備えることなのです。指導部が変化すれば、それに即応しよう。これがいちばん大事で、そうした適応能力を今から準備していかなければならない。

もうひとつ大事な点は、国内に動乱が起つてはならないということです。中国の経済は引き続き発展していくことが望ましいし、政局も安定している方が望ましい。ソ連・東欧のような変化を招いてはいけません。もしそういうことになれば、中国にとっての災難であるばかりか、全世界にとつての災難です。だからわれわれは、ポスト鄧小平時代をまともに見ている、穏健な改革派がいてほしいと希望するのです。彼らが開明的であれば、われわれを受け入れることも容易となるでしょう。われわれには、軍隊も資金もありません。今以上に大きな影響を与えることはできません。

### 「天安門事件」はあつたか?

橋爪 趙紫陽が復権する可能性はありますか。

馬 そう言う人もいます。今、中国共産党内部には四つの派があつて、ポスト鄧小平を準

備しています。そのうちの一派が趙紫陽 万里らのグループです。

趙紫陽復権を望む人たちの筋書きはこうです。彼は八九年当時、これからの中国では民主化の問題が持ち上がると予想していた。しかし、まさか鄧小平が銃でもって弾圧するなどは思いもよらなかった。その頃からポスト鄧小平をにらんで復権の基礎をつくり始めている――と。

ただし、今、趙紫陽は現われていない。もし趙紫陽が復権してきたとしても、彼と本気で民主化運動を推進するとは思えない。やはり、中国民主化のプロセスでの過渡的な指導者の一人でしょう。

宝島 ポスト鄧小平として期待する改革派の政治家は、ずばり誰ですか。

馬 それは答えにくい質問です。私が考えている比較的穏やかな人間は、喬石でしょう。他にも受け入れられる人物が何人かいて一人に絞るのは難しい。要は「八九年当時の趙紫陽みたいな人」ということです。改革に理解を持ち、思想が比較的開けているなら、誰でもいいといえるでしょう。

宝島 最後に、聞きにくいことをお伺いした

いのですが、日本の一部の雑誌などでは、民主活動家が資金調達などの面で黒社会(マフィア)とつながっているのではないかと、という報道もあります。事実、在日の民主活動家を「天安門マフィア」と表現した『週刊大衆』を名譽毀損で訴えたりもされているわけですが。

馬 もちろん天安門事件以来、国外で五年も暮らしているわけだから、いろいろな人が混じっているでしょう。けれども、少なくとも指導者の範囲に、マフィアと関係あるなどという人間は絶対にはいません。われわれは絶対に黒社会と関係ありません。

宝島 もうひとつ、天安門事件に対する検証が進んでくると、欧米や日本のジャーナリストや研究者のなかで、天安門広場では誰も殺されなかったのではないかと、ということがいわれるようになりました。これについては？

馬 われわれも委員会をつくって、調査しているところです。天安門広場で殺人がなかったといいますが、では、天安門とはどの範囲ですか？ 天安門の脇で殺されても、裏側で殺されても、区別がありますか？ みなさんテレビで見たでしょう。いわゆる天安門広場において殺人がなかったとしても、それは大

きな問題ではないのではないですか。橋爪 長時間、ありがとうございます。今後のご活躍を祈ります。

\*

馬副首席とのインタビューで印象的だったのは、とても率直に、民主化運動の置かれている厳しい状況を直視していること。にもかかわらず、希望をもって進んでいくことの大切さを熱っぽく語ってくれたことだった。中国の国内事情についてのコメントも的確で、民主化運動の指導部が現実的かつ長期的な視野に立っていることをうかがわせた。

残念なことに、民主化運動に対する日本人の関心は、天安門事件の直後に比べると薄れてしまっている。日本政府も相変わらず場当たり的な対応で、長い目で日中関係を構想していく基本スタンスに欠けている。

馬さんはこのことを、外国の例を出しながらやんわりと批判した。天安門事件のあとフランス政府は、活動家の亡命を受け入れ、当座の現金やアパート、仕事の斡旋など、細かな面倒をみた。アメリカ政府は、十万人の中国人留学生に無制限の在留許可を与えた。いまでは、両国とも中国市場の将来性を考え、



天安門事件をきっかけに大きく盛り上がった中国の民主化運動。ポスト鄧体制での動向が注目される

経済利益を第一にせざるをえないのだが、それでもできることはやるという最低線を守っている。日本政府やわれわれのふがいなさを責められているようで、胸が痛んだ。

折から、鄧小平重病説がメディアに流れ始めた。情報源の「中国筋」、すなわち今の指導部が、いよいよXデー待機の態勢に入ったと理解できる。この号が店頭に並ぶ頃、新聞に大見出しが躍っていたとしても不思議でない。そうならば、中国も変わるだろう。だが、われわれにとって大切なのは、そうした変化に合わせて小利口に立ち回ることではなく、そうした変化に動じない日中両国のあるべき将来像をきちんと見定めることだ。さもなければ、苦しみつつ前進するこの巨大な国の、足手まといになるだけだ。

インタビューを終え、東京の街並みを帰るながら、祖国を離れて苦しい戦いを今も進めている民主化運動の人々と、のんびりした顔つきですれ違う日本人たちとの落差の大きさに、私はいつにも増して考えさせられてしまった。